

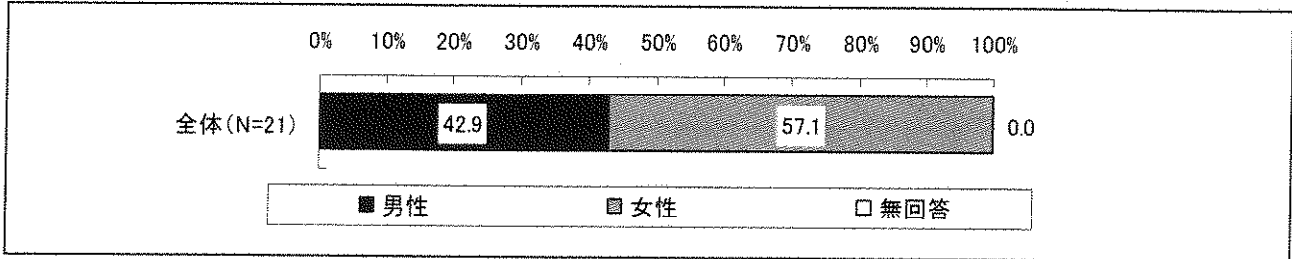
## 第7章 若年性認知症用調査

---

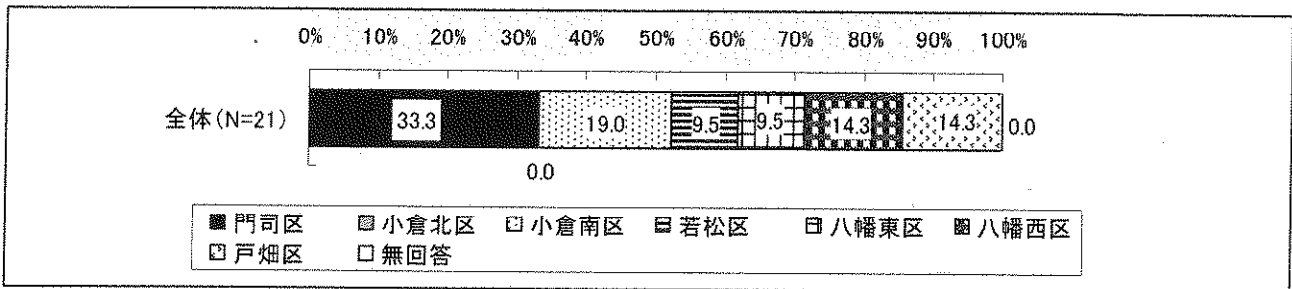
## 第7章 若年性認知症用調査

### 1. 回答者の基本属性

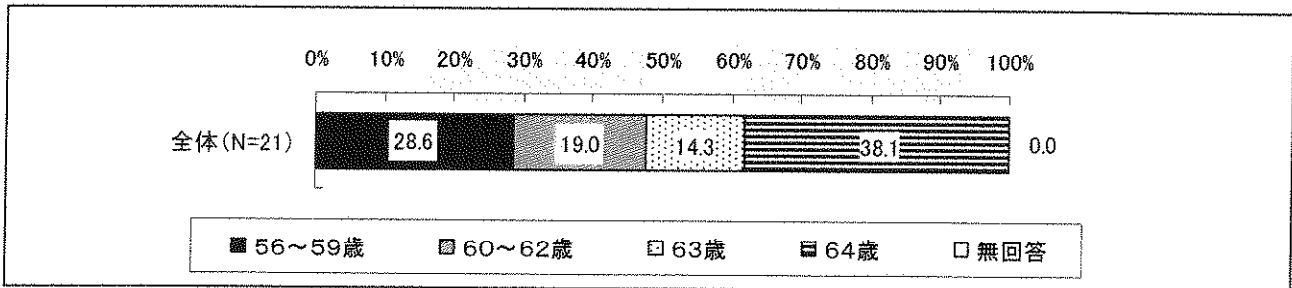
#### (1) 性別



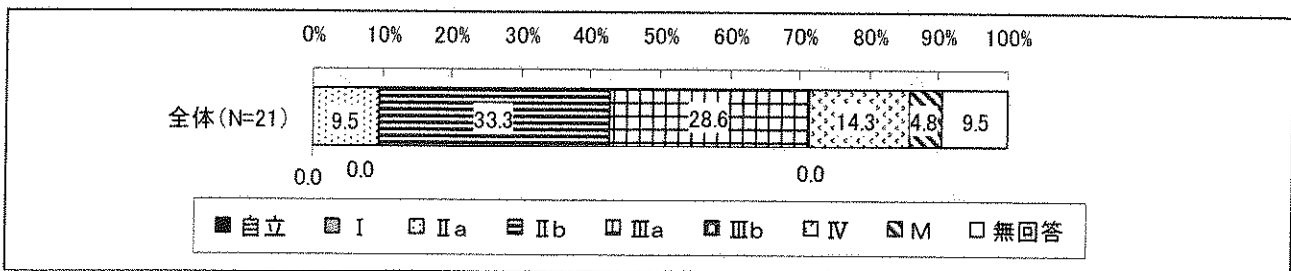
#### (2) 居住区



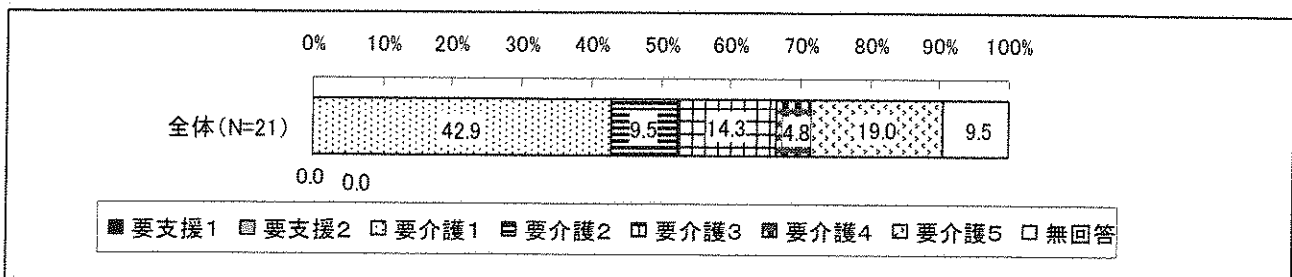
#### (3) 年齢



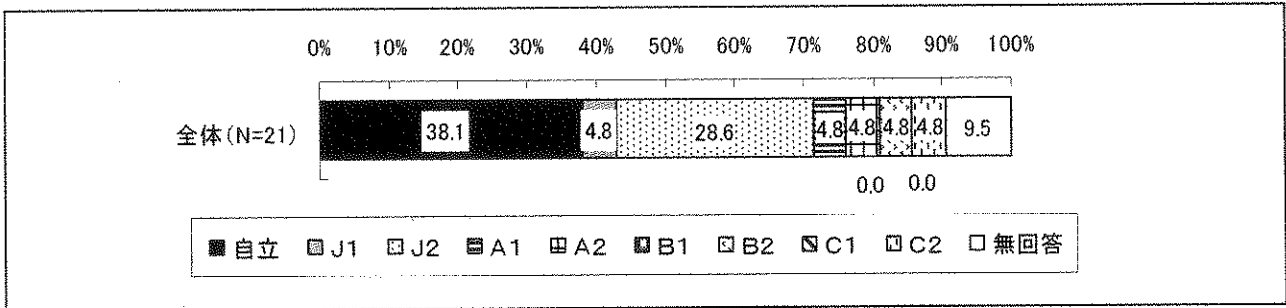
#### (4) 認知症自立度



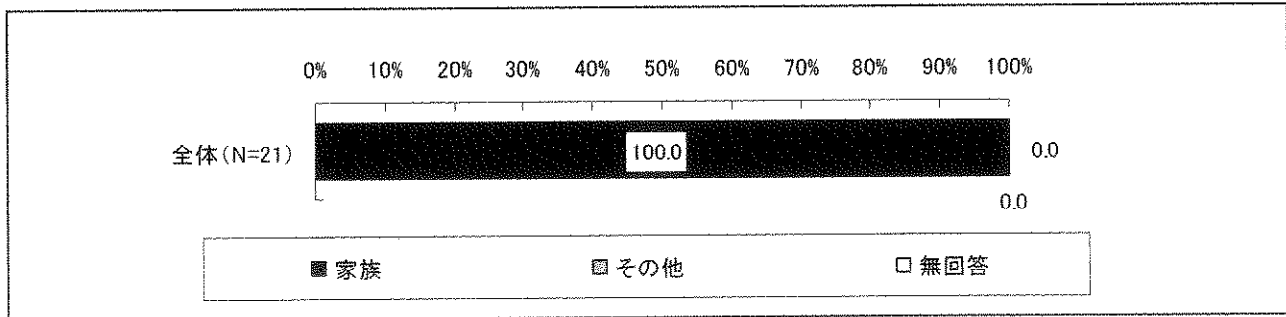
#### (5) 要介護度



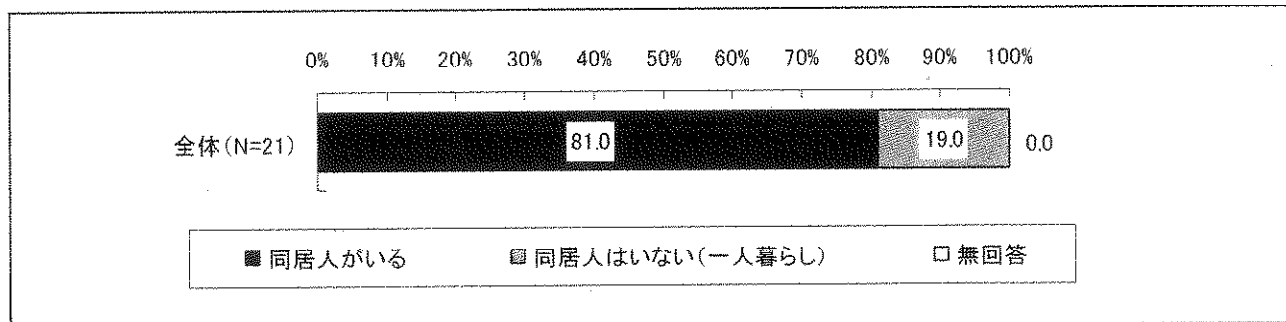
(6) 身体状況（障害老人の日常生活自立度）



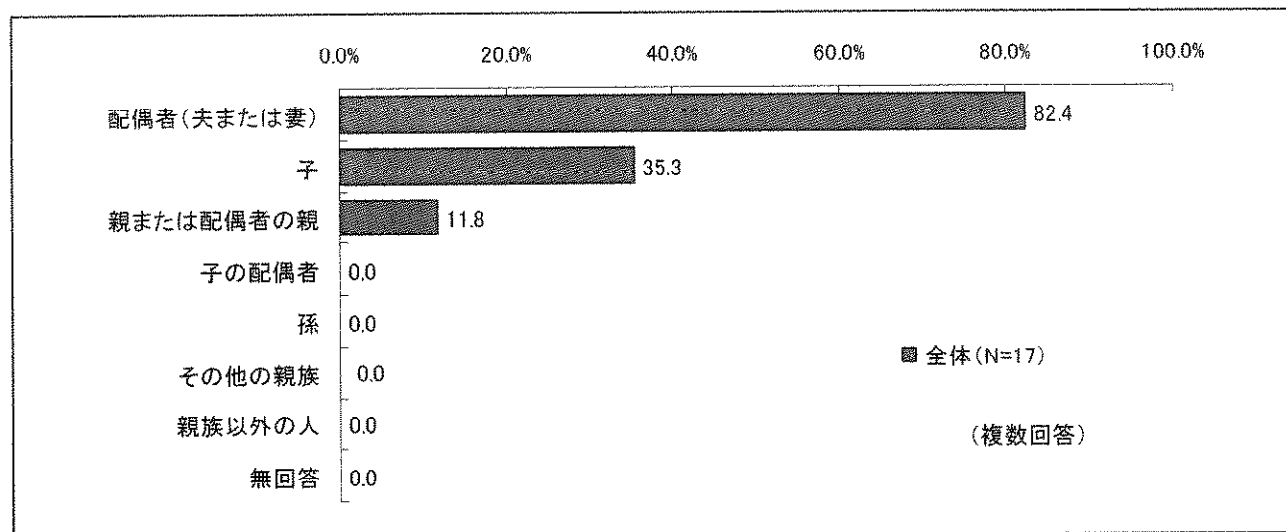
(7) 調査の回答者



(8) 同居の有無



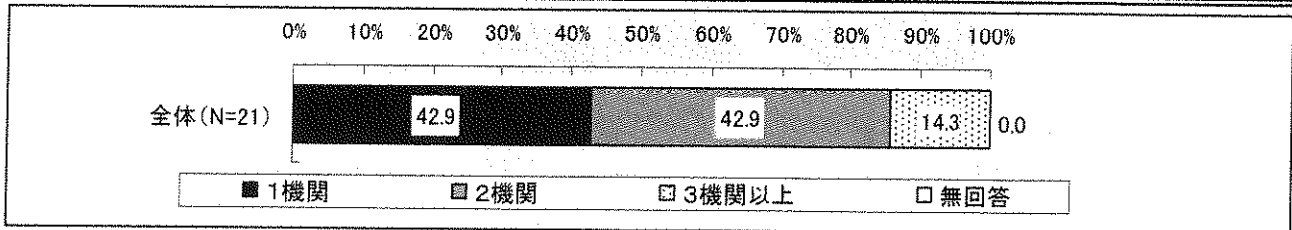
(9) 同居者の続柄



2. 認知症診断時の状況

(1) 受診医療機関数

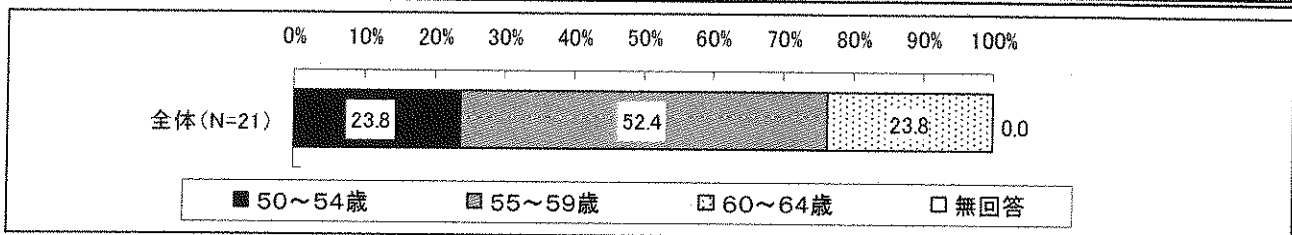
問3 ご本人が認知症であるとの診断を受けるまでにいくつの医療機関を受診しましたか。  
(数を記入)



「1機関」の受診で診断が出た人と「2機関」の受診で診断が出た人は同率で42.9%となっている。また、「3機関以上」受診して診断がでた人は14.3%である。

(2) 認知症の診断を受けた時の年齢

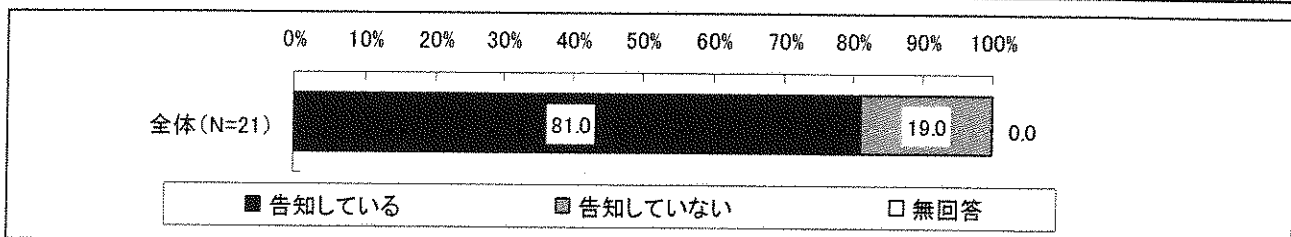
問3 ご本人がはじめて認知症であるとの診断を受けた年齢は何歳ですか。(数を記入)



認知症の診断を受けた時の年齢は、「55~59歳」が過半数（52.4%）を占めている。

(3) 認知症の告知

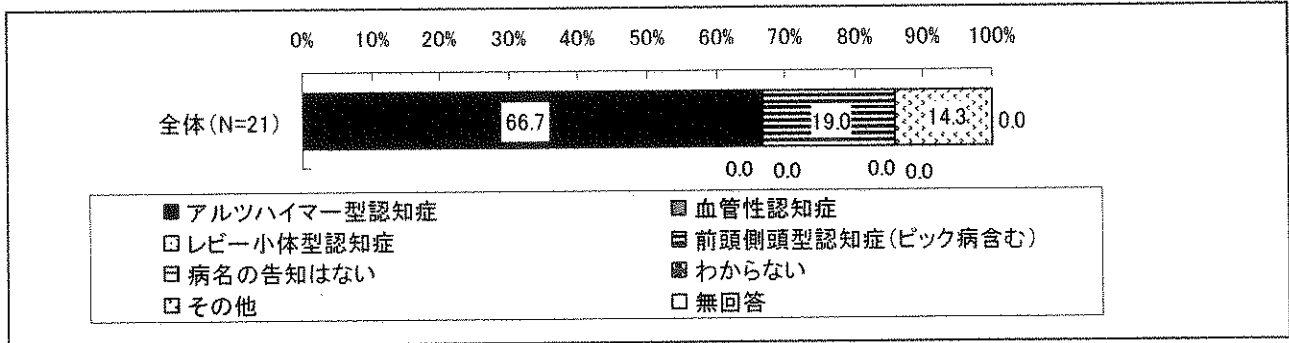
問4 認知症の告知をご本人にしていますか。(いずれか一つに○)



本人に認知症の告知をしている人は81.0%である。

(4) 認知症の原因疾患

問5 ご本人の病名は何とされていますか。(いずれか一つに○)



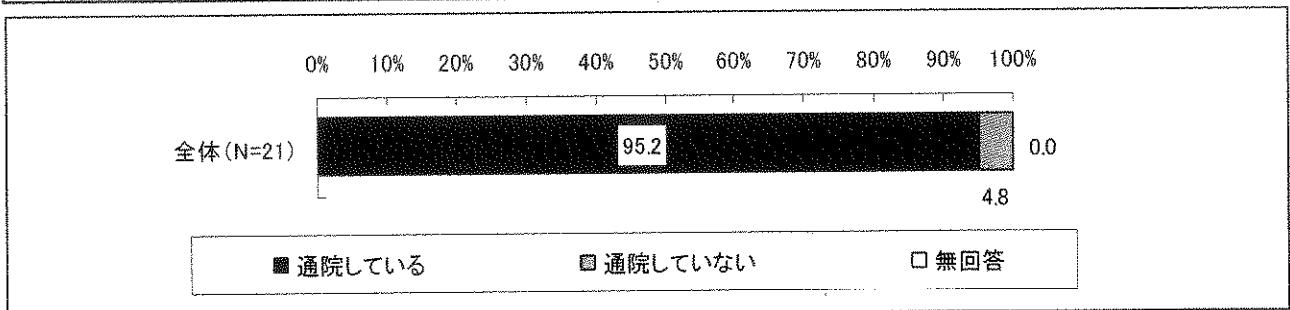
認知症の原因疾患は、「アルツハイマー型認知症」が7割弱（66.7%）を占めて最も多く、次いで「前頭側頭型認知症（ピック病含む）」（19.0%）となっている。

3. 認知症の治療状況

(1) 認知症に関する通院状況

① 通院状況

問6 認知症に関して、現在のご本人の通院状況を教えてください。(いずれか一つに○)

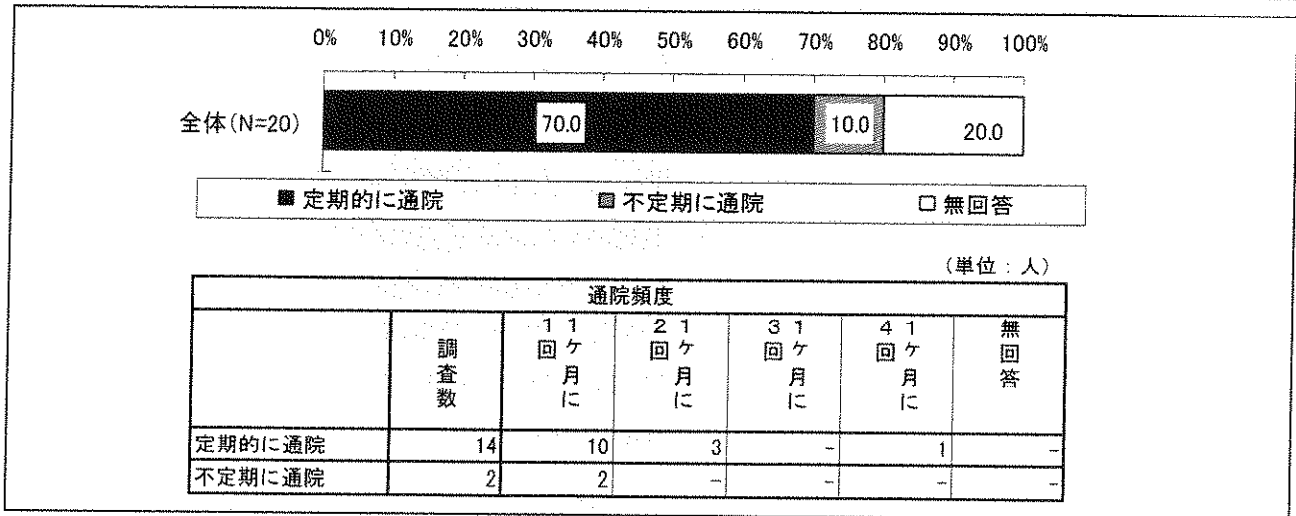


認知症に関する通院状況は、「通院している」が大半（95.2%）を占めている。

② 通院頻度

[認知症で通院中の方へ]

問6-1 通院状況をお答えください。(いずれか一つに○)

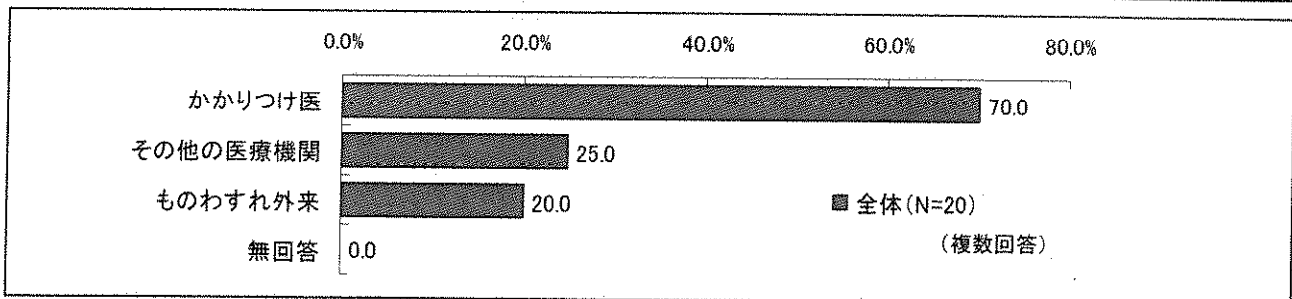


通院状況については、「定期的に通院」が7割(70.0%)を占めており、このうち通院頻度は「1ヶ月に1回」(10人)が最も多い。

③ 通院中の医療機関

[認知症で通院中の方へ]

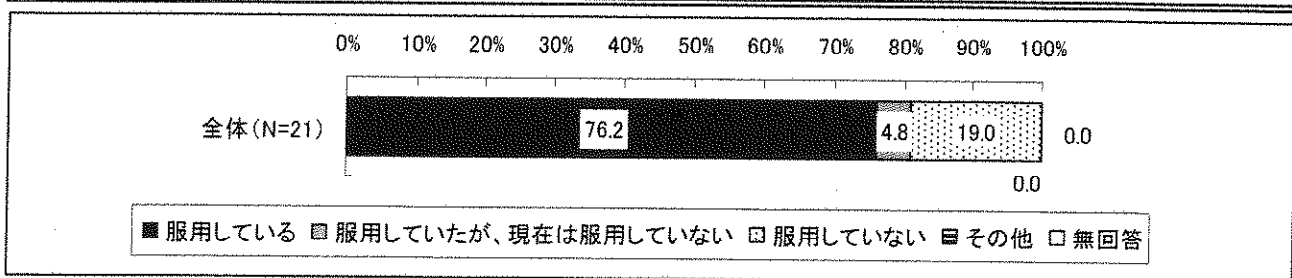
問6-2 通院しているのはどのような医療機関ですか。(複数回答可)



通院している医療機関は「かかりつけ医」が7割(70.0%)で最も多い。

(2) 薬の服用状況

問7 現在、ご本人は認知症の薬を服用していますか。(いずれか一つに○)

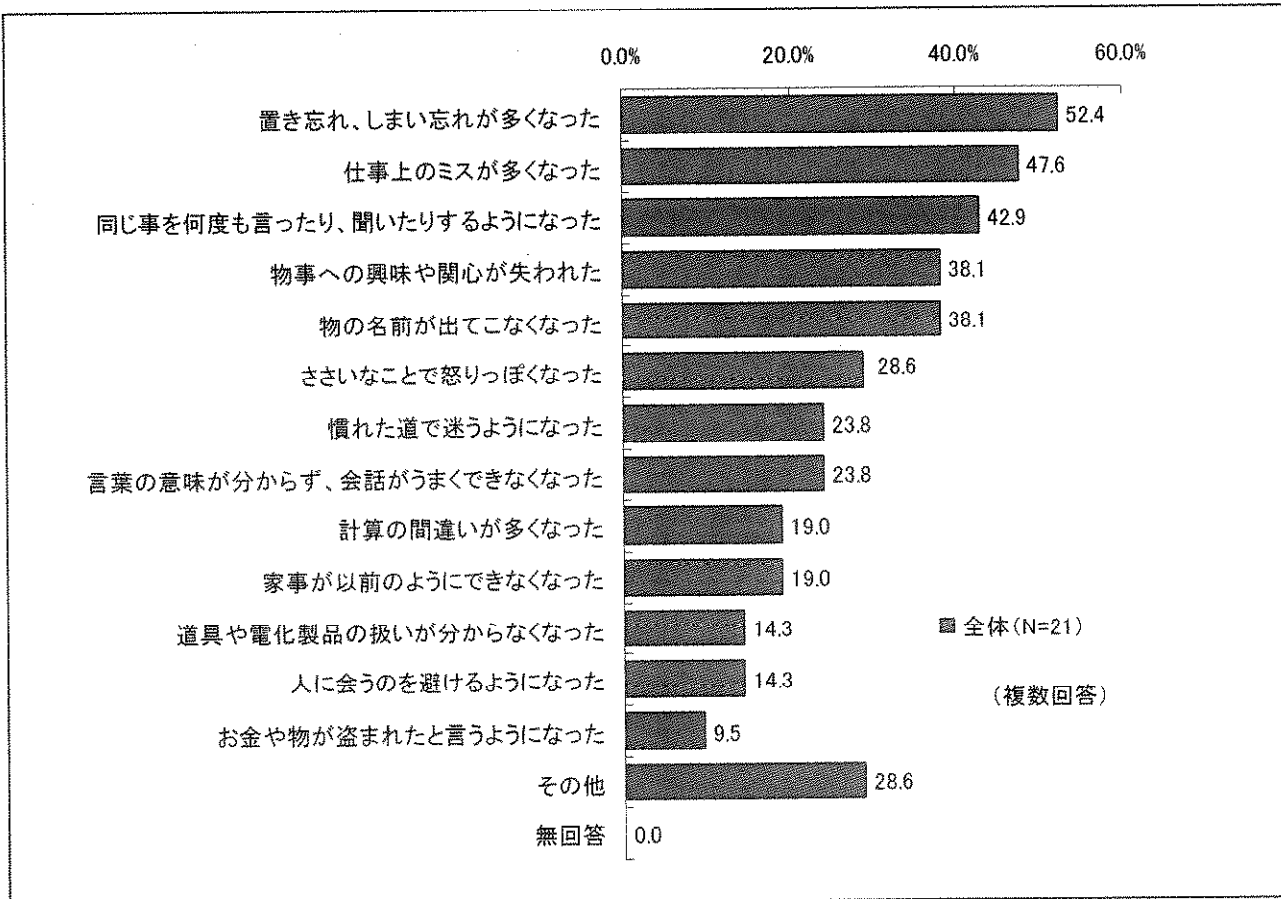


認知症の薬の服用状況は、「服用している」が8割弱(76.2%)を占めている。

4. 認知症の気づき

(1) 認知症に気づいたきっかけ

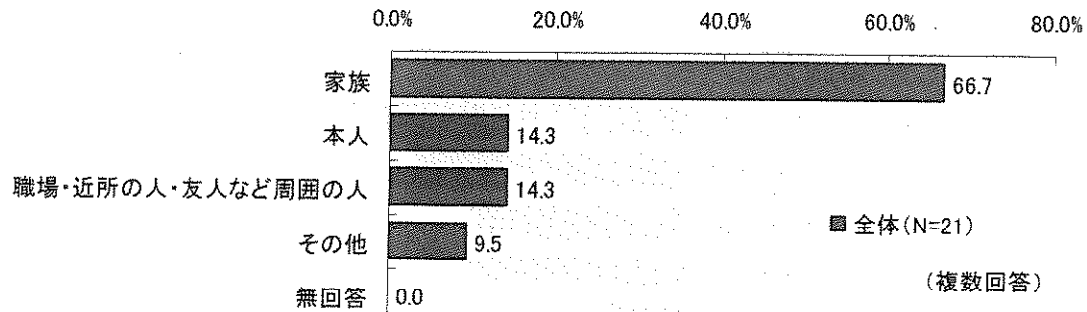
問8 ご本人が認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけとなったのは、どのようなこと（変化）でしたか。（複数回答可）



認知症に気づいたきっかけは、「置き忘れ、しまい忘れが多くなった」が半数以上（52.4%）で最も多く、次いで「仕事上のミスが多くなった」（47.6%）、「同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった」（42.9%）となっている。

(2) 認知症に気づいた人

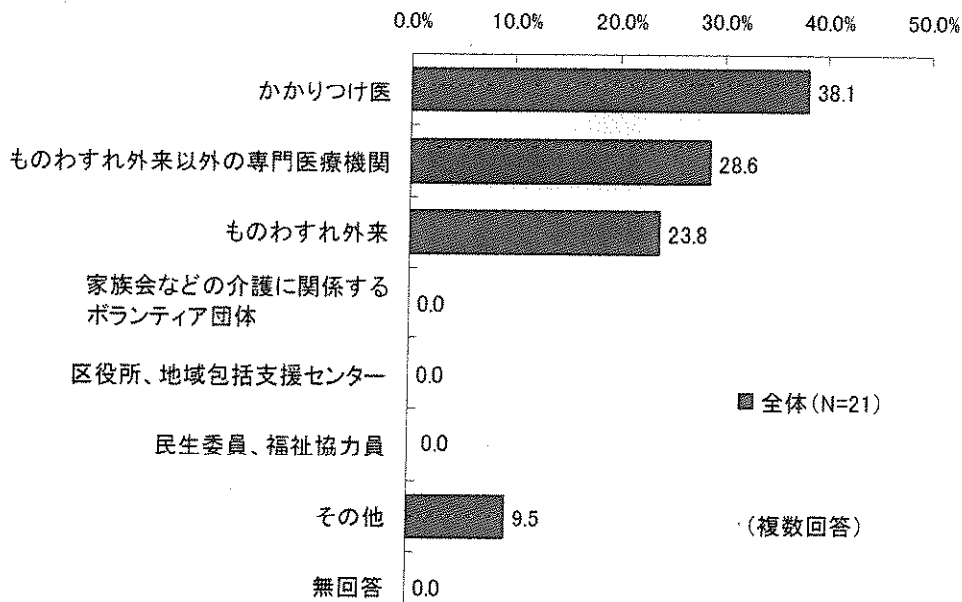
問9 問8の変化に最初に気づいたのはどなたでしたか。(いずれか一つに○)  
※複数回答を容認して集計



認知症に最初に気づいた人は「家族」が66.7%を占めて多い。

(3) 認知症の相談・受診先

問10 問8の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）したのはどこですか。(いずれか一つに○)  
※複数回答を容認して集計



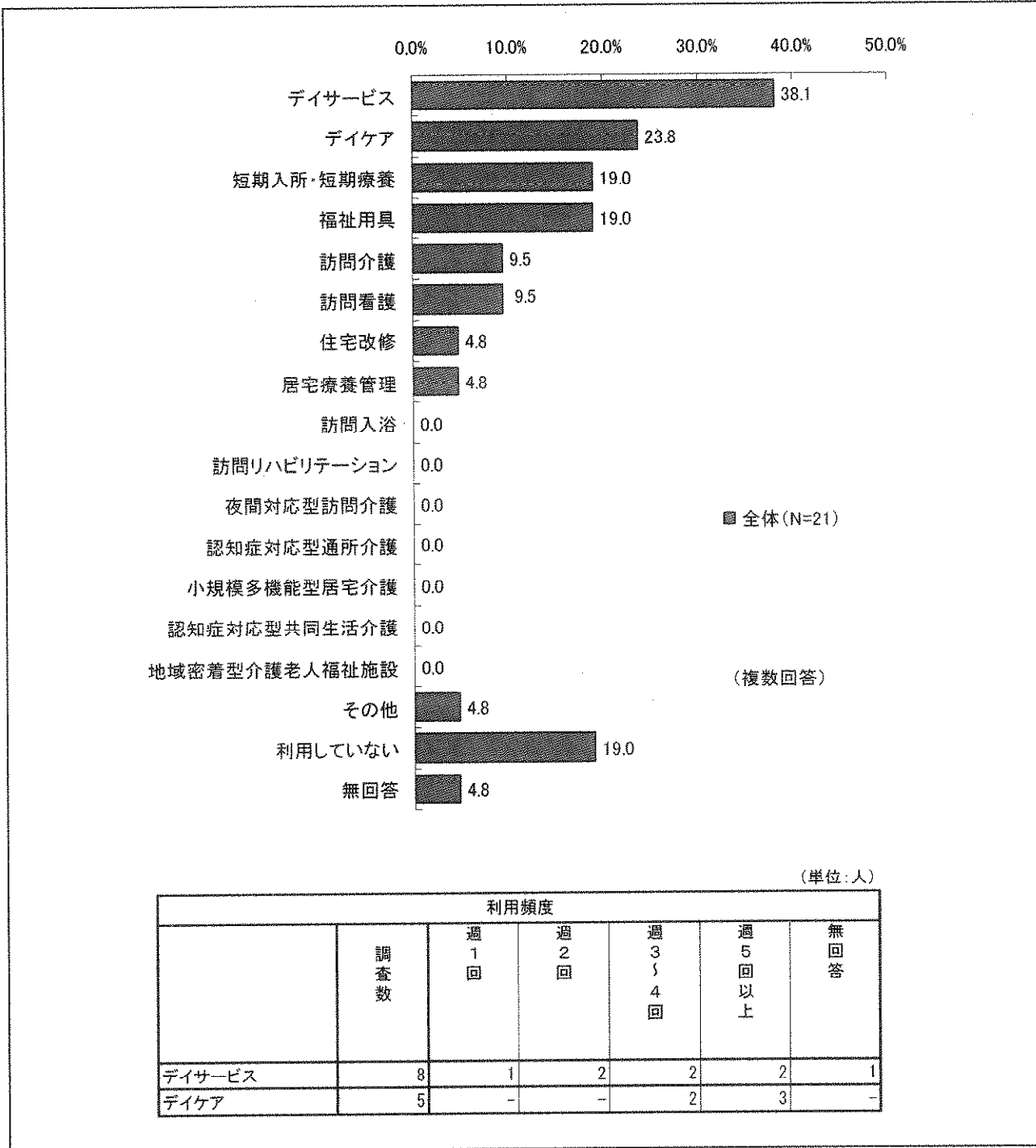
認知症に最初に気づいた時の家族、親戚、知人以外の相談・受診先は、「かかりつけ医」(38.1%)が最も多く、次いで「ものわすれ外来以外の専門医療機関」(28.6%)、「ものわすれ外来」(23.8%)となっている。



5. 現在の状況

(1) 介護保険サービスの利用状況

問 1 1 ご本人が現在利用している介護保険サービスがありますか。(複数回答可)



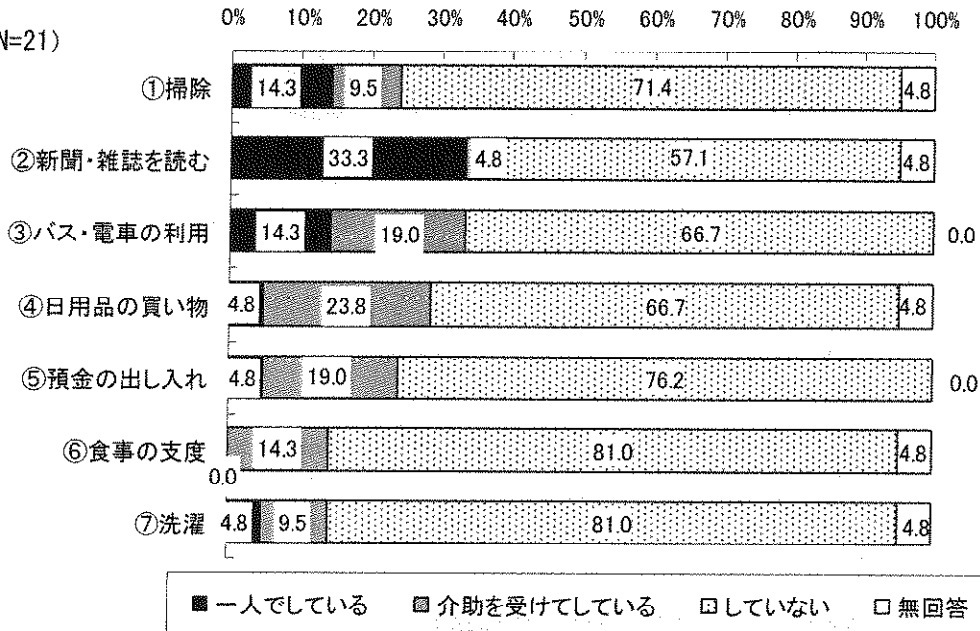
利用している介護保険サービスは「デイサービス」(38.1%)が最も多く、次いで「デイケア」(23.8%)となっている。

また、デイサービス利用者の利用頻度では「週2回」「週3~4回」「週5回以上」がそれぞれ2人ずつ、デイケア利用者の利用頻度では「週3~4回」が2人、「週5回以上」が3人となっている。

(2) 手段的日常生活動作

問12 普段の生活で、ご本人が次にあげるようなことをしていますか。している場合、介助が必要ですか。(いずれか一つに○)

各 (N=21)



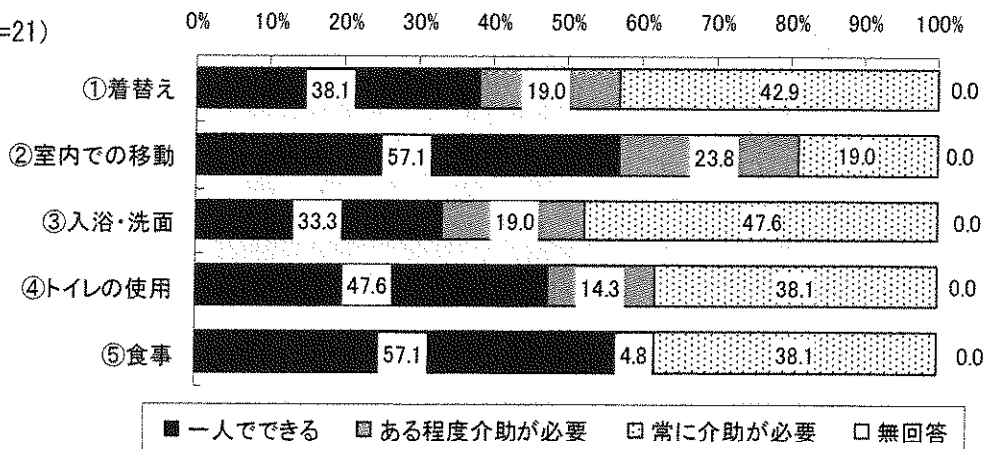
手段的日常生活動作については、①～⑦の全ての項目で「していない」が過半数を占めており、特に『⑥食事の支度』『⑦洗濯』では8割を超えている。

一方、「一人ですいている」の割合をみると、『②新聞・雑誌を読む』が3割強(33.3%)で最も割合が高く、『①掃除』(14.3%)や『③バス・電車の利用』(14.3%)も1割を超えている。

(3) 日常生活動作

問13 次にあげる生活の場面で、現在ご本人にどの程度介助が必要ですか。(いずれか一つに○)

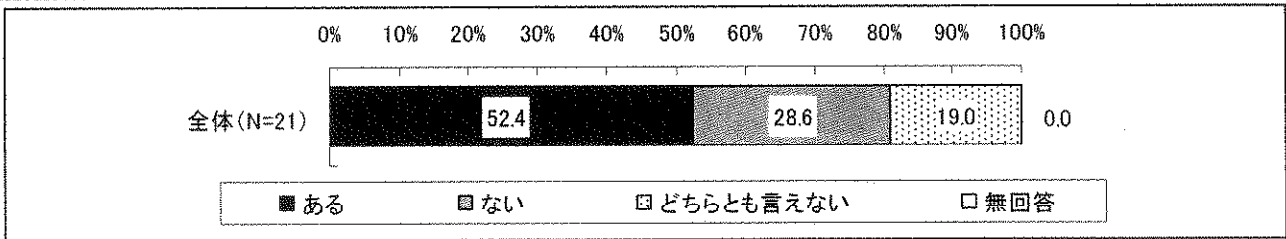
各 (N=21)



日常生活動作について「一人でできる」の割合をみると、『②室内での移動』(57.1%)や『⑤食事』(57.1%)で過半数を占めている。一方、『③入浴・洗面』は33.3%であり、他に比べて割合が低い。

(4) 意欲的な活動、楽しみ

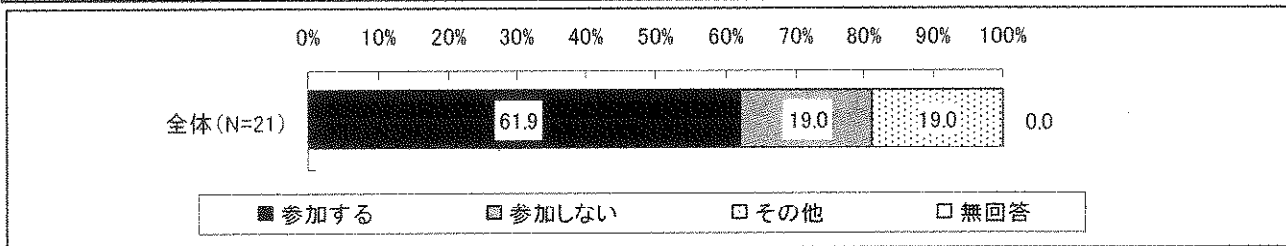
問14 ご本人が日頃から意欲を持って行っている活動、または、楽しみにしていることはありますか。(いずれか一つに○)



意欲的な活動の有無については、「ある」が過半数（52.4%）を占めており、「ない」は28.6%である。

(5) 家族会への参加意向

問15 今後、家族の集まりが開催されることがあれば参加されますか。(いずれか一つに○)

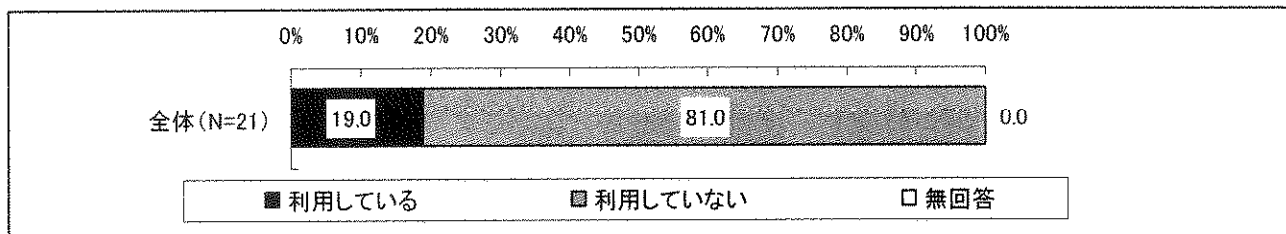


主な介護者の家族会への参加意向は「参加する」が61.9%を占めており、「参加しない」(19.0%)を大きく上回っている。

※ 以下の(6)～(8)について、回答者全員が障害福祉サービス・障害基礎年金・自立支援医療（精神通院医療）の利用対象者であるとは限らない。

(6) 障害福祉サービスの利用状況

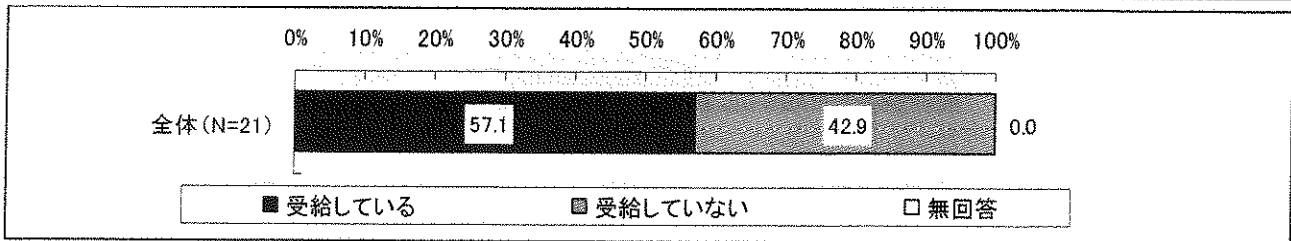
問16 現在、ご本人は障害福祉サービスを利用されていますか。(いずれか一つに○)



障害福祉サービスの利用状況は、「利用していない」が81.0%と多くを占めている。

## (7) 障害基礎年金の受給の有無

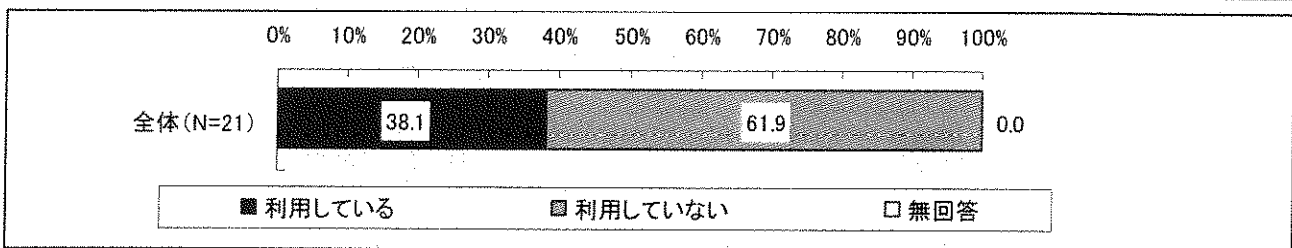
問17 現在、ご本人は障害基礎年金を受給されていますか。(いずれか一つに○)



障害基礎年金の受給の有無は、「受給している」が6割弱(57.1%)を占めており、「受給していない」(42.9%)を上回っている。

## (8) 自立支援医療(精神通院医療)の利用の有無

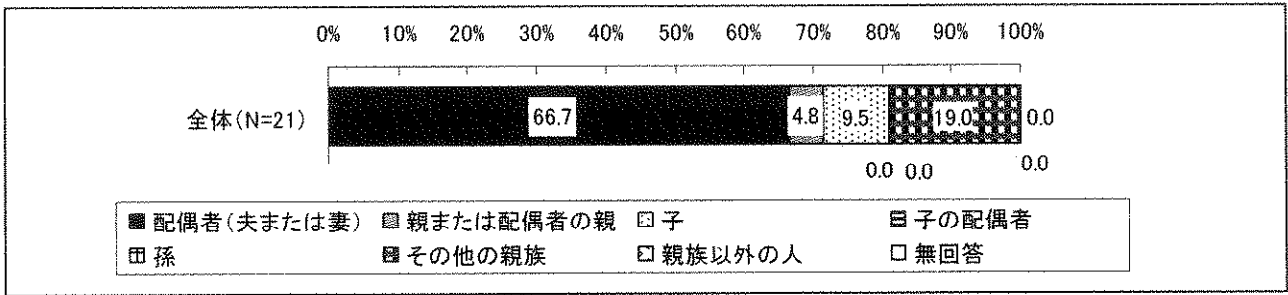
問18 現在、ご本人は自立支援医療(精神通院医療)を利用されていますか。(いずれか一つに○)



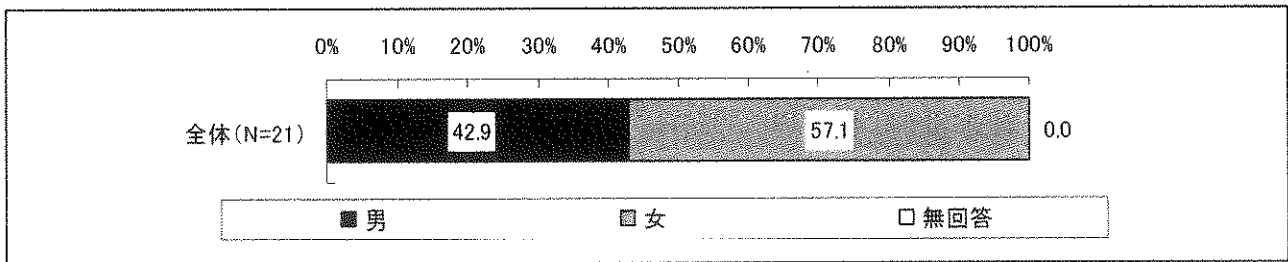
自立支援医療(精神通院医療)の利用の有無については、「利用していない」が61.9%を占めており、「利用している」(38.1%)を上回っている。

6. 家族（主な介護者）の状況

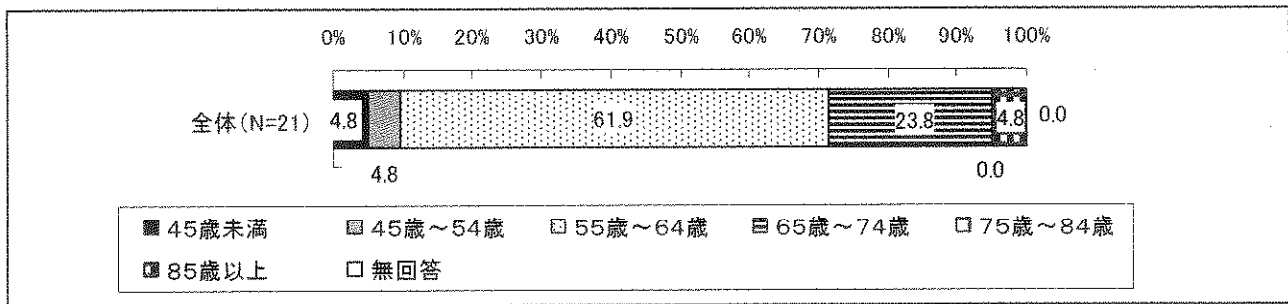
(1) 主な介護者の続柄



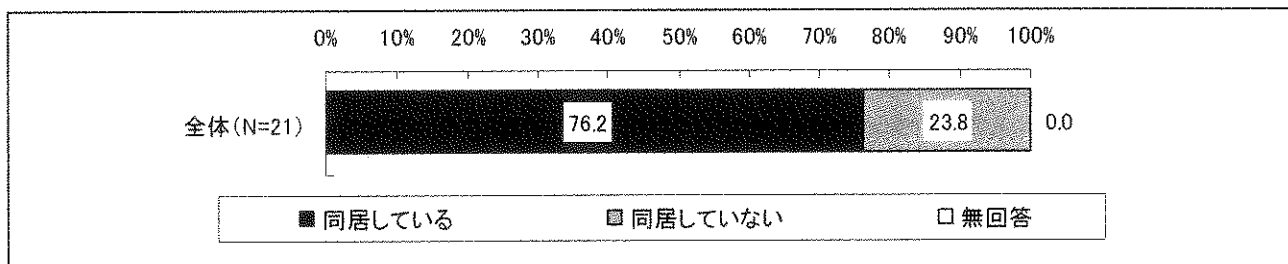
(2) 主な介護者の性別



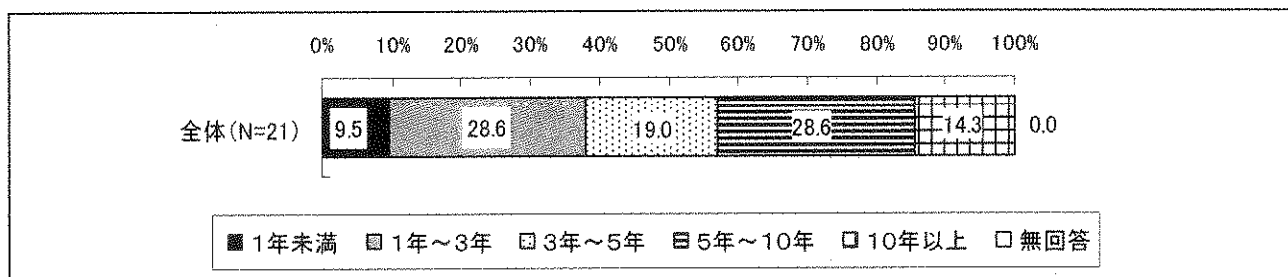
(3) 主な介護者の年齢



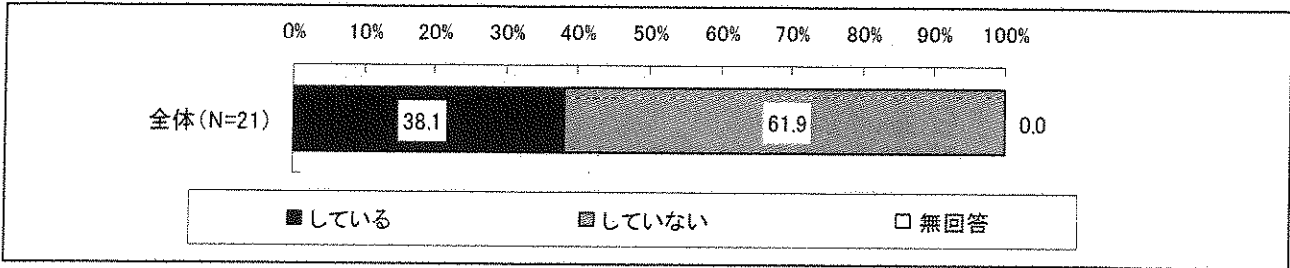
(4) 主な介護者の同居の有無



(5) 介護期間



(6) 主な介護者の仕事の有無



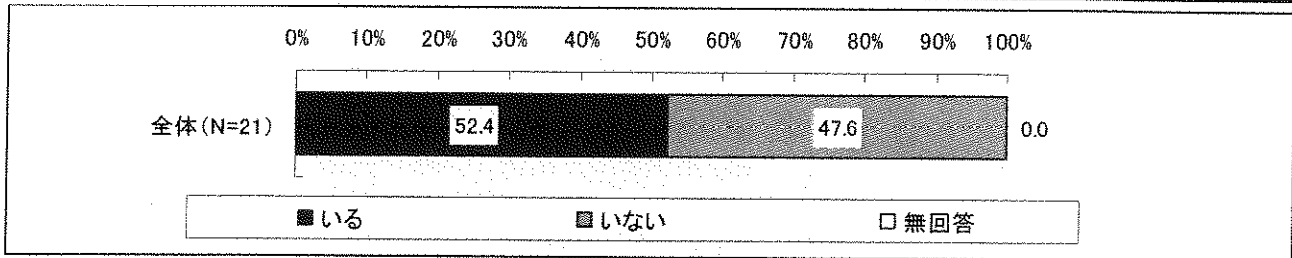
7. 家族（主な介護者）へのサポート

(1) 介護の手伝い

① 介護の手伝いの有無

[主な介護者へ]

問24 あなたには、介護を手伝ってくれる人がいますか。（介護保険サービスのスタッフを除く）。（いずれか一つに○）



介護を手伝ってくれる人の有無については、「いる」(52.4%)、「いない」(47.6%)が概ね半数ずつとなっている。

② 介護を手伝ってくれる人との関係

[介護を手伝ってくれる人がいる方へ]

問24-1 その人はどのような人ですか。（複数回答可）

(単位：人)

調査数	手伝ってくれる人との関係					
	同居の家族	以外居の親族	友人	の近人所・地域	その他	無回答
11	6	5	-	-	-	-

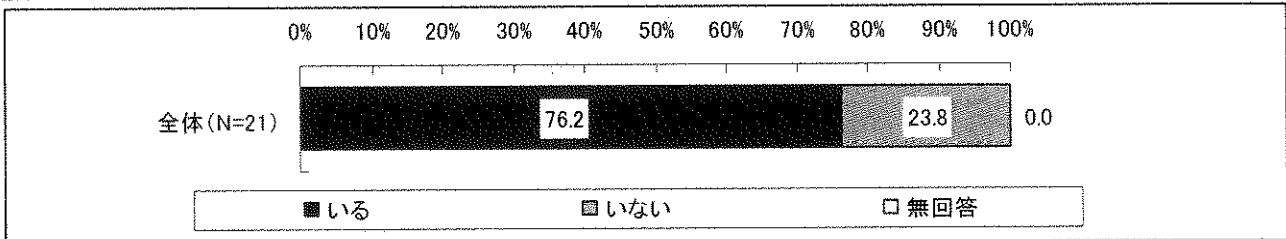
介護を手伝ってくれる人との関係は、「同居の家族」(6人)が最も多く、次いで「同居の家族以外の親族」(5人)となっており、家族以外の人はいない。

(2) 介護に関する相談先

① 介護に関する相談先の有無

[主な介護者へ]

問25 あなたには、介護のことで何でも相談できる人はいますか。(いずれか一つに○)

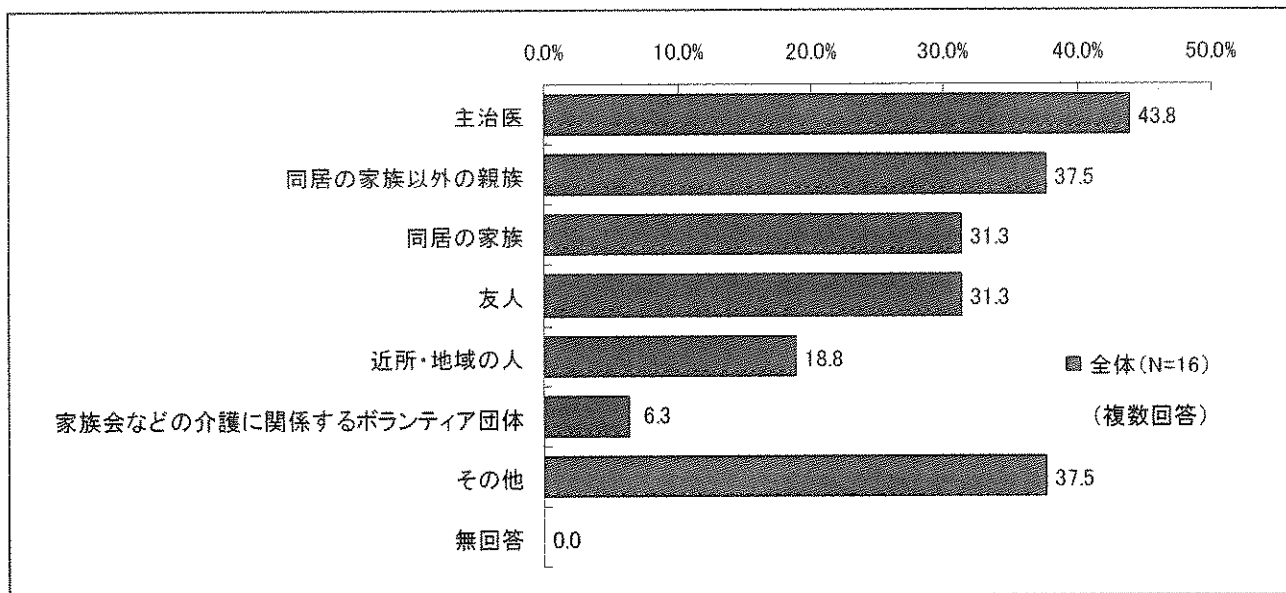


介護のことで相談できる人が「いる」人は8割弱（76.2%）である。

② 介護に関する相談先

[介護に関する相談先がある方へ]

問25-1 その人はどのような人ですか。(複数回答可)



介護に関する相談先は「主治医」(43.8%)が最も多く、次いで「同居の家族以外の親族」(37.5%)、「同居の家族」(31.3%)、「友人」(31.3%)となっている。

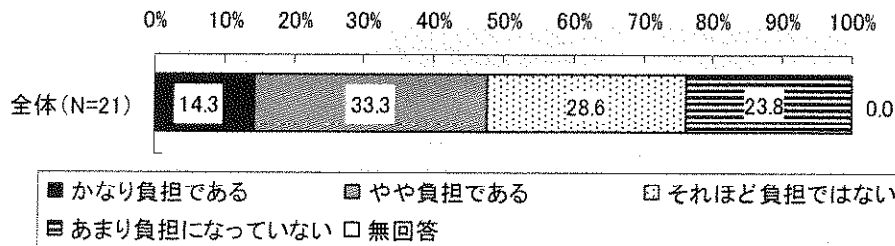
また、「その他」が37.5%あるが、その内容としては「ケアマネジャー」や「施設のスタッフ」等があがっている。

8. 家族（主な介護者）の介護負担

(1) 介護の経済的負担感

[主な介護者へ]

問27 ご本人の介護費用は経済的にどの程度負担になっていますか。(いずれか一つに○)

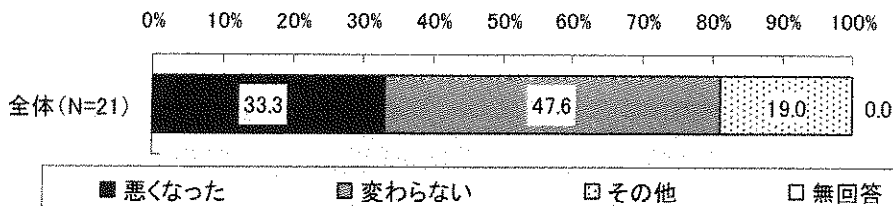


介護費用の経済的負担感は、「やや負担である」(33.3%)が最も多く、これに「かなり負担である」をあわせた『経済的負担を感じている』人は47.6%となっている。

(2) 健康状態の変化

[主な介護者へ]

問28 ご本人の介護を始めてから、あなたの健康状態に変化はありましたか。(いずれか一つに○)

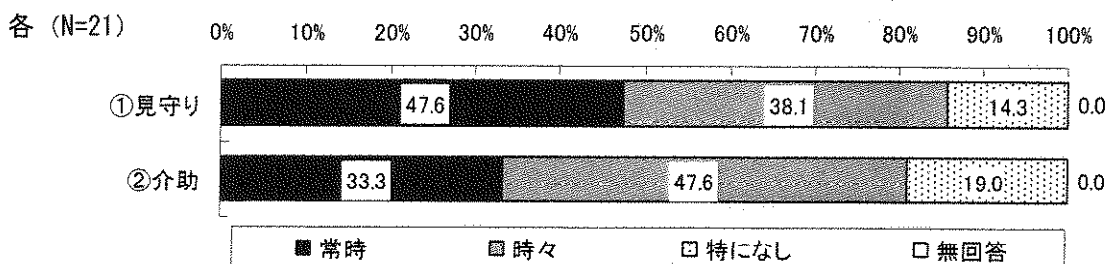


介護を始めてからの健康状態の変化は、「変わらない」が半数弱(47.6%)を占めて多いものの、「悪くなった」も3割強(33.3%)を占めている。

(3) 見守り・介助の必要度

[主な介護者へ]

問29 1日のうちで、ご本人の見守りや介助はどのくらい必要ですか。(いずれか一つに○)



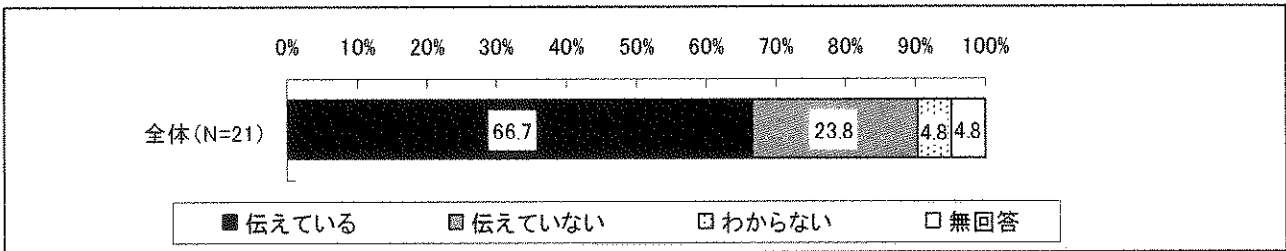
『①見守り』と『②介助』の必要度について、半数弱(47.6%)が「常時」の見守りを必要としており、3割強(33.3%)が「常時」の介助を必要としている。



(4) 近所への説明

[主な介護者へ]

問30 ご近所の方にご本人の症状や状態について伝えてありますか。(いずれか一つに○)



近所の方への認知症の症状や状態についての説明は、「伝えている」が7割弱（66.7%）を占めており、「伝えていない」（23.8%）を大きく上回っている。

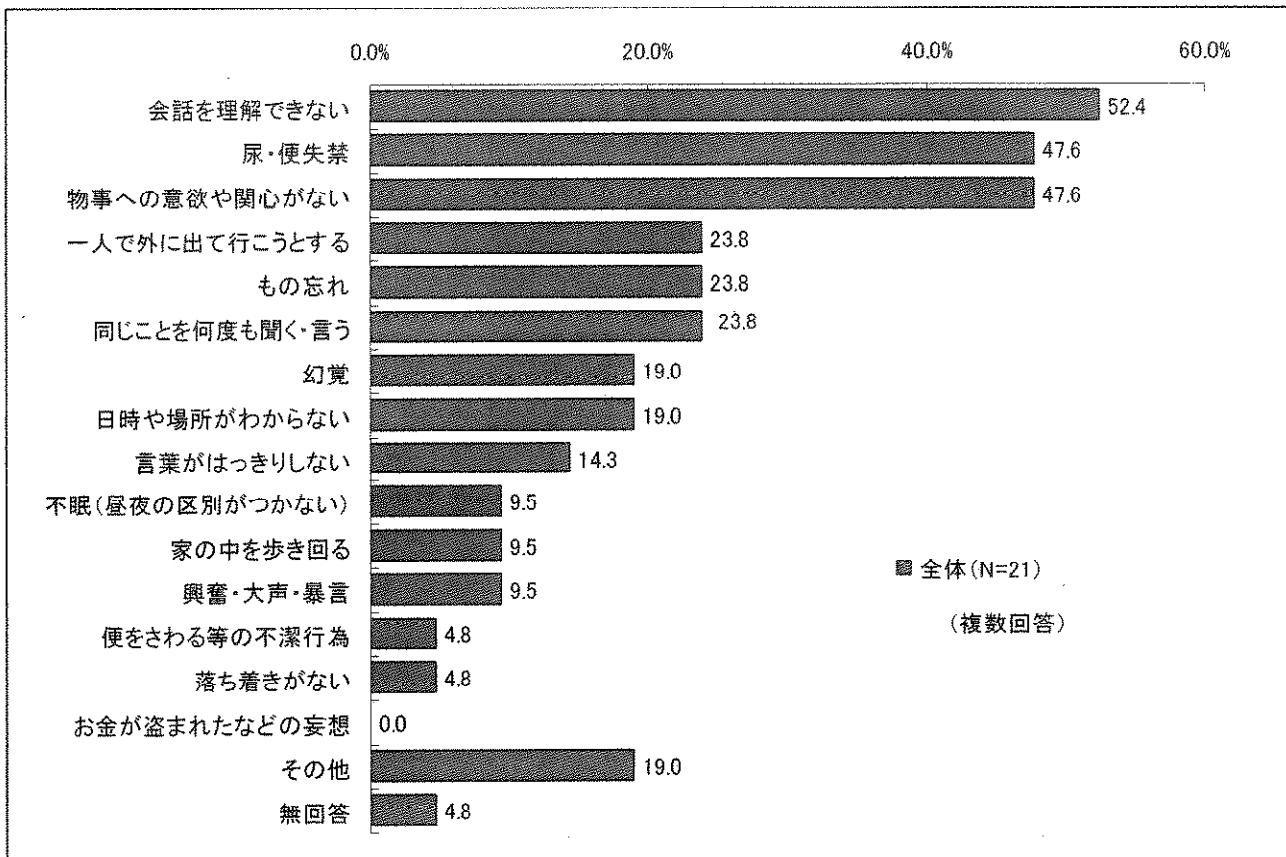
(5) 認知症症状の負担感

[主な介護者へ]

問31 現在、ご本人に見られる症状や状態で、あなたが負担に感じることはどのようなことですか。下の記入欄に最も負担に感じることから順に5つ番号をあげてください。

■複数回答として集計

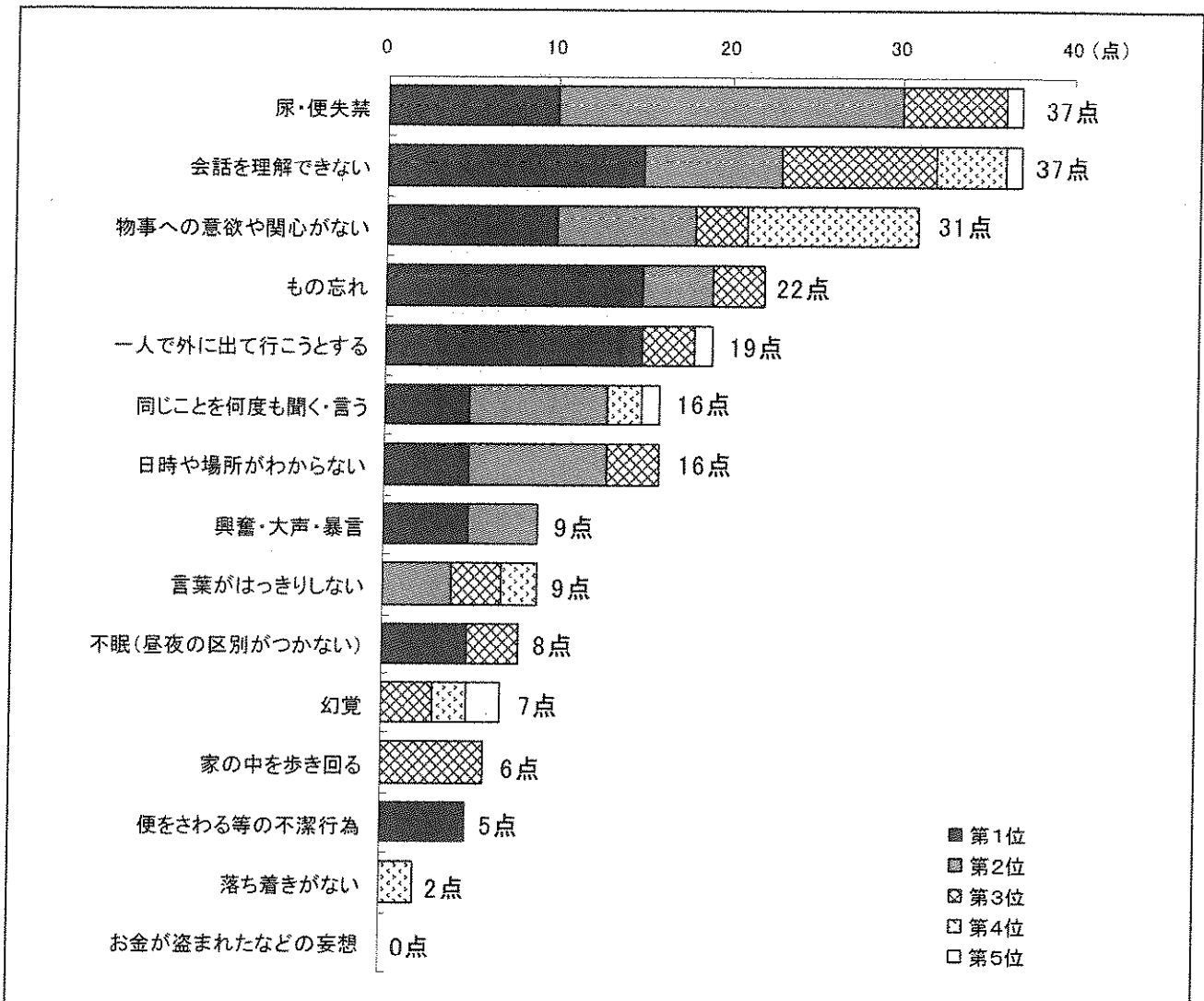
※第1位～第5位の回答順位の強さを度外視し、設問文を「負担に感じることを5つまで○を付けてください」と読み替えて集計している。



認知症の症状や状態で介護者が負担に感じていることは「会話を理解できない」（52.4%）が最も多く、次いで「尿・便失禁」（47.6%）、「物事への意欲や関心がない」（47.6%）となっており、これらは回答者の半数前後が負担であると回答している。

## ■負担度

※各選択肢が第1位～第5位に選ばれた度数（ボリューム）に、順位の強さ（第1位=5点、第2位=4点、第3位=3点、第2位=2点、第5位=1点）を配点した負担度を算出。ここでは105点満点中の点数となる。



負担度が最も高いは「尿・便失禁」(37点)と「会話を理解できない」(37点)であり、次いで「物事への意欲や関心がない」(31点)となっている。

一方、負担度が比較的小さいのは「お金が盗まれたなどの妄想」(0点)、や「落ち着きがない」(2点)等である。

認知症に関する意識及び実態調査  
報告書

北九州市印刷登録番号 ●●●●

平成24年9月調査  
北九州市保健福祉局

(協力)  
福岡教育大学 教育学部 教授  
中村 貴志

(参考)

### 要介護度

要支援1	日常生活上の基本的動作については、ほぼ自分で行うことが可能であるが、日常生活動作（歩行や排泄など）の介助や現在の状態の悪化防止により要介護状態となることの予防に資するよう、手段的日常生活動作（買物や薬の服用など）について何らかの支援を要する状態
要支援2	上記の状態から、手段的日常生活動作を行う能力がわずかに低下し、何らかの支援が必要となる状態
要介護1	上記の状態から、手段的日常生活動作を行う能力が一部低下し、部分的な介護が必要となる状態
要介護2	上記の状態に加え、日常生活動作についても部分的な介護が必要となる状態
要介護3	上記の状態と比較して、日常生活動作および手段的日常生活動作の両方の観点からも著しく低下し、ほぼ全面的な介護が必要となる状態
要介護4	上記の状態に加え、さらに動作能力が低下し、介護なしには日常生活を営むことが困難となる状態
要介護5	上記の状態よりさらに動作能力が低下しており、介護なしには日常生活を行うことがほぼ不可能な状態

### 認知症自立度

I	何らかの認知症を有するが、日常生活はほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

### 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）

ランクJ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へなら外出する。
ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
ランクC	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 1. 自力で寝返りをうつ。 2. 自力では寝返りもてない。

(調査結果の考察)

中村 貴志 福岡教育大学 教育学部

(協力)

北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 認知症対策・権利擁護分科会

(氏名)

(団体名)

井田 能成	認知症疾患医療センター
伊藤 直子	西南女学院大学保健福祉学部
緒方 有為子	社団法人 福岡県看護協会
河原 一雅	福岡県弁護士会北九州部会高齢者・障害者委員会
清水 博子	公益社団法人 福岡県社会福祉士会
長森 健	社団法人 北九州市医師会
野村 尚子	老いを支える北九州家族の会
日浅 和江	社団法人 福岡県介護福祉士会
村上 吉博	若松区保健・医療・福祉・教育地域連携推進協議会
山崎 裕一	福岡県司法書士会北九州支部

(五十音順・敬称略)